様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　５ 月 １９ 日現在

機関番号：２１６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ１２２９７

研究課題名（和文）育児支援団体の特性に応じてカスタマイズ可能な介入プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a customizable intervention program based on the characteristics of childrearing support groups

研究代表者
石井　佳世子（Ishii, Kayoko）

福島県立医科大学・公私立大学の部局等・助教

研究者番号：４０３３６４７５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、各育児支援団体が支援を行う際に抱えている課題を明らかにし、育児支援団体と協働して妊娠期からの育児支援プログラムを開発し、育児支援団体が自らの支援の質を高めることを目的とした。
初めに、育児支援団体の研究協力依頼を行い、５つの支援団体から協力が得られた。現在の支援方法の困りごとや今後の希望をヒアリングし、プログラム実施における課題について話し合った。協力団体の支援実施者に研修会を実施した後、本プログラムを実施してもらえるように依頼した。
その後、実施団体でグループ会議を開き、実施時の感想や改善点について話し合い、その意見を基に、プログラムのマニュアル冊子を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
わが国では産婦や産後の夫婦を対象とした介入は行われているものの、妊娠期の女性や夫婦を対象とした介入はほとんど行われていない。本研究は、産後うつ予防に有効と想定される妊娠期からのプログラム開発をその効果を検証しながら進めることにより、エビデンスに基づいたプログラムを開発できる。また、育児支援団体が本研究を通じて得た経験を基に持続的に改善するためのガイドブックを公表することにより、自らの団体の支援の質を高めることにつながる。さらに、複数の育児支援団体との協働により、複数の実施者、異なる地域における参加者の特性に合わせてカスタマイズしたプログラムとなり、より汎用性、実用性が高い。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify issues that childrearing support groups face when providing support, with the aim of developing an antenatal childrearing support program (based on an Australian empathy session) in collaboration with the groups and to seek ways to improve the quality of the support they provide. We worked with five childrearing support groups throughout Japan and held meetings with them about their current activities, hopes for the future, and issues related to implementing a new childrearing support program targeting expectant couples. After conducting a training session for the groups' key service providers, the groups started implementing the program. Group meetings were then held to discuss their impressions of the program and areas for improvement. Based on these discussions, we created a manual booklet for the antenatal childrearing support program.

研究分野：母性看護

キーワード：育児支援　プログラム　産後うつ　夫婦

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近年、児童虐待は次第に増加しており、深刻な状況である。児童虐待のリスク要因として、母親の育児不安やストレス、産後うつ病等の保護者側の要因があげられている。母親の精神的支援に取り組む育児支援団体は数多くあり、対象者に合わせた支援を行っているが、その支援は産後に集中しており、妊娠期からの育児支援は乏しい。また、妊娠期からの育児支援の取り組みを考えている支援団体からは専門的知識や技術を提供してほしいという希望があり、各団体と協働して、育児支援団体の各ニーズに合わせてカスタマイズできる妊娠期からの育児支援プログラムを開発することは育児支援団体をサポートすることにつながり、母親の精神状況を改善し、最終的には、子どもへの虐待防止への効果をもたらすと考えられる。

２．研究の目的

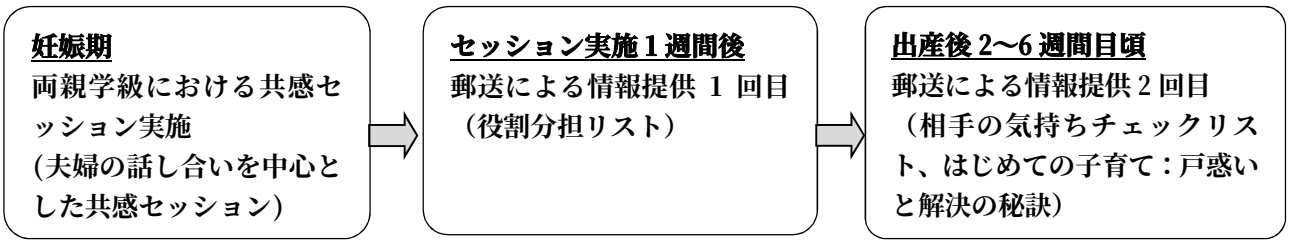
本研究では、各育児支援団体が支援を行うにあたり、抱えている課題を明らかにし、育児支援団体のニーズに合わせてカスタマイズできる育児支援プログラム指針を作成し、育児支援団体が自らの支援の質を高めることを目的とする。

３．研究の方法

１）協力団体の募集を行い、協力が得られた団体とのラウンドテーブルディスカッションを通して、現在の支援方法への困り感や今後の希望をヒアリングする。

２）具体的な育児支援プログラムを開発する。

３）各育児支援団体におけるプログラムを試行する。



４）参加者への介入効果を評価する（介入前、産後）

ただし、実施団体の事業目的により参加者が妊娠中の夫婦ではない場合は、改変したプログラムのみを実施する（小学生の保護者・教員：本プログラムの一部である大変な日のシナリオを改変して実施、育児支援従事者・大学生には全てのプログラムを簡略化し実施）。また、別の事業目的で使用された過去の小・中学生の保護者・教員、大学生のセッション評価票（無記名）も、データとして収集する。

５）実施者間ワークショップを開催し、各育児支援団体の試行結果を発表して共有し、プログラムの改変指針による支援団体への効果を評価する。

４．研究成果

１）対象者に対するプログラム介入の効果評価

研究協力が得られた５つの育児支援団体に実施者向けの研修会を開催後、本プログラムを実施してもらった。実施後は介入実施報告書を作成していただいた。その他、A市の小学校の保護者・教員６０名、B市の育児支援従事者約８０名、C年度，D年度の１年生１７１名とC年度２年生８２名の看護大学生を対象にプログラムを改変し、実施した。その結果，１，２年生共にプログラム終了後に共感性尺度の下位尺度に上昇がみられた．また，共感性プログラムを中心に行った１年生では共感性尺度平均点が有意に上昇し，生と性の健康教室の一貫でプログラムが

実施された２年生では，出産の自信と妊娠計画への自信の上昇がみられた。

表１　プログラム前後の比較

		１年生 講義前	(n=164) 講義後	p 値	２年生 講義前	(n=70) 講義後	p 値 *
		中央値（最小-最大）					
共感性尺度平均点 b		3.84±0.43	3.97±0.44	<0.001**	3.84±0.46	3.88±0.52	0.15
下位尺度１	常に人の立場にたって、相手を理解するようにしている	4(2-5)	4(2-5)	0.001*	4(2-5)	4(2-5)	0.02*
下位尺度２	自分と違う考え方の人と話しているとき、その人がどうしてそのように考えているのかをわかろうとする	4(2-5)	4(2-5)	<0.001**	4(2-5)	4(2-5)	0.2
下位尺度３	相手を批判するときは、相手の立場を考えることができない	4(1-5)	4(1-5)	0.06	4(2-5)	3(1-5)	0.14
下位尺度４	人と対立しても、相手の立場に立つ努力をする	4(1-5)	4(2-5)	<0.001**	4(2-5)	4(2-5)	0.005*
下位尺度５	人の話を聞くときは、その人が何を言いたいのか考えながら話を聞く	4(2-5)	4(3-5)	0.79	4(2-5)	4(2-5)	0.82
精神健康度（フェイススケール）		7(1-15)	4(1-15)	<0.001**	6(1-15)	6(2-15)	0.003*
妊娠出産への態度	私は赤ちゃんの世話をすることを楽しみにしています	1(1-4)	1(1-3)	0.37	1(1-4)	1(1-4)	0.17
	私は大きな問題なく出産をする自信があります	2(1-4)	2(1-4)	0.08	2(1-4)	2(1-4)	0.04*
妊娠計画への自信 c					2(1-4)	2(1-4)	0.03*

* p<0.05 ** p<0.001

a. 共感性尺度平均点は対応のあるｔ検定、それ以外の項目はウィルコクソンの符号付順位検定を行った。

b. 平均点±標準偏差

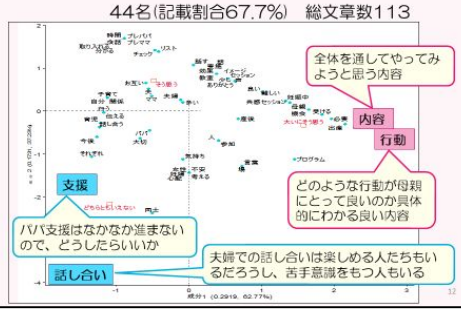
c. ２年生のみの調査項目

２)プログラム研修に参加した育児支援従事者の特徴

プログラム団体のプログラム研修アンケートの自由記載を基に、対応分析を行った結果、「プログラムを自分達で行いたいか」に「大いにそう思う」と回答した人の自由記載における特徴語は「行動」「内容」であり、プログラムへの肯定的で積極的な言葉が見られた。一方、「どちらともいえない」と回答した人には「話し合い」「支援」という特徴語が現れ、慎重な意見や支援の現状についてのみの意見が見られた。プログラムが今後に役立つと思っても自ら実施したい者は少なく、プログラム普及の難しさを感じた。今後は支援者の疑問に丁寧に答え、実施時の工夫点を盛り込む等、実際に実施してみたいと思えるような研修や継続したサポートが必要と考える。以上の結果を東北公衆衛生学会で発表した。

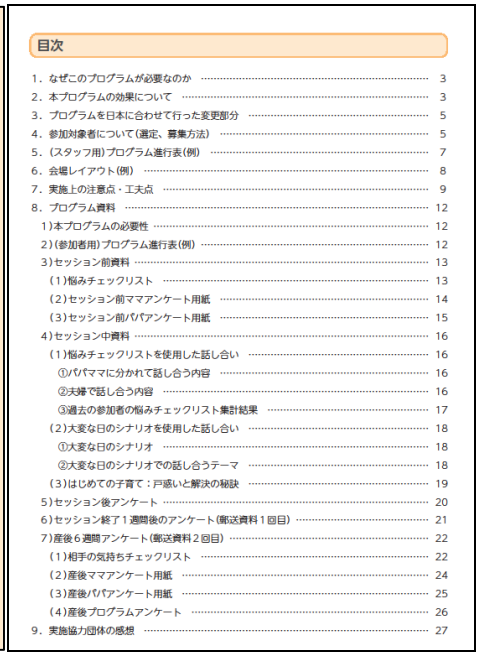
図１：「プログラムを自分達で行いたいか」の自由記載内容による対応分析

44名(記載割合67.7%)　総文章数113



３）リーフレットの作成

本プログラムにご協力いただいた５つの育児支援団体と会議を開き、各団体の試行結果、実施時の感想や改善点を共有したところ、統一した内容で行うためにプログラムをマニュアル化してほしいという意見が得られた。５つの育児支援団体から得られた知見を基に、支援対象者の特性に合わせてカスタマイズできるプログラムのリーフレットを５００部作成した。



目次

1．なぜこのプログラムが必要なのか …… 3
2．本プログラムの効果について …… 3
3．プログラムを日本に合わせて行った変更部分 …… 5
4．参加対象者について(選定、募集方法) …… 5
5．(スタッフ用)プログラム進行表(例) …… 7
6．会場レイアウト(例) …… 8
7．実施上の注意点・工夫点 …… 9
8．プログラム資料 …… 12
1)本プログラムの必要性 …… 12
2)(参加者用)プログラム進行表(例) …… 12
3)セッション前資料 …… 13
(1)悩みチェックリスト …… 13
(2)セッション前ママアンケート用紙 …… 14
(3)セッション前パパアンケート用紙 …… 15
4)セッション中資料 …… 16
(1)悩みチェックリストを使用した話し合い …… 16
①パパママに分かれて話し合う内容 …… 16
②夫婦で話し合う内容 …… 16
③過去の参加者の悩みチェックリスト集計結果 …… 17
(2)大変な日のシナリオを使用した話し合い …… 18
①大変な日のシナリオ …… 18
②大変な日のシナリオでの話し合うテーマ …… 18
(3)はじめての子育て：戸惑いと解決の秘訣 …… 19
5)セッション後アンケート …… 20
6)セッション終了１週間後のアンケート(郵送資料１回目) …… 21
7)産後６週間アンケート(郵送資料２回目) …… 22
(1)相手の気持ちチェックリスト …… 22
(2)産後ママアンケート用紙 …… 24
(3)産後パパアンケート用紙 …… 25
(4)産後プログラムアンケート …… 26
9．実施協力団体の感想 …… 27

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Ishii K, Goto A, Watanabe K, Tsutomi H, Sasaki M, Komiya H, Yasumura S	４．巻 41(3)
２．論文標題 Characteristics and changes in the mental health indicators of expecting parents in a couple-based parenting support program in Japan.	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Health care for women international	６．最初と最後の頁 330-344
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/07399332.2019.1643350	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 渡邉一代、石井佳世子、石田久江、太田操、後藤あや	４．巻 85
２．論文標題 産後うつ病予防を目的とした妊娠期からの“夫婦の共感性を高めるセッション”の試行：対象者の共感性と精神健康度とセッション評価	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本健康学会誌	６．最初と最後の頁 80-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 石井佳世子、渡邉一代、津富宏、太田操、柴田俊一、佐々木美恵、後藤あや
２．発表標題 妊娠中からの育児支援プログラム研修の育児支援団体による評価
３．学会等名 第６８回東北公衆衛生学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 柴田俊一、後藤あや、石井佳世子、斉藤麻友佳、津富宏
２．発表標題 産前からの親教育プログラム－産後うつ予防・親への移行促進・産後クライシスを予防する－
３．学会等名 日本子ども虐待防止学会第24回学術集会おかやま大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 石井佳世子、後藤あや、柴田俊一、田辺佳代子
２．発表標題 母親の産後うつ予防を目的とした妊娠期の夫婦参加型育児支援～介入モデルの効果検証と応用
３．学会等名 日本子ども虐待防止学会第23回学術集会ちば大会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	後藤　あや (Goto Aya) (00347212)	福島県立医科大学・公私立大学の部局等・教授 (21601)	
研究分担者	太田　操（平山操） (Ohta Misao) (20289870)	福島県立医科大学・看護学部・教授 (21601)	
研究分担者	柴田　俊一 (Shibata Shunichi) (40550984)	常葉大学・健康プロデュース学部・教授 (33801)	
研究分担者	津富　宏 (Tsutomi Hiroshi) (50347382)	静岡県立大学・国際関係学部・教授 (23803)	
研究分担者	佐々木　美恵 (Sasaki Mie) (50458238)	埼玉学園大学・人間学部・准教授 (32421)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	渡邉　一代 (Watanabe Kazuyo) (70622322)	福島県立医科大学・看護学部・講師 (21601)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関